

猪俣の百八燈

猪俣の百八燈は、400年以上続く盆祭りの行事で、毎年8月15日に堂前山の尾根に築かれた百八基の塚に火をともし幻想的な行事です。猪俣地区では、平安から鎌倉時代にかけて武蔵国で勢力を伸ばした武蔵七党のひとつ、猪俣党の棟梁、猪俣小平六範綱とその一族の霊を慰めるためと伝えられています。

行事は、猪俣地区内の満6歳から満18歳までの青少年が、親方・次親方・後見・若衆組・子供組に分かれて行事の一切を取りしきり、大人の介入がないのが特色です。

準備も、道こさえ・草刈り・塚築き・人別集めなどがあり、いずれも親方の指示に従って子どもたちが行います。

8月21日、今年も堂前山に百八の火が灯りました。

今月号は関係者のみで行われた「猪俣の百八燈」を、写真中心でご紹介します。

※今年は雨天により8月15日ではなく、8月21日に行われました。



当日8月21日、朝早くから堂前山に子どもたちの姿がありました。塚築きの準備です。崩れた塚を直すため、芝と土を積み上げていきます。その後、土をこねて燈明に蓋をし、築いた塚の上に置いていきます。

4基の大きな塚の上には薪を置き、灯した火が高く燃え上がるよう準備しました。

朝早くからの準備で疲れていると思いきや、子どもたちは、元気に走り回っていました。

夕刻、高台院に関係者が集まります。そこには、緊張した表情と心待ちにしている表情で待つ子どもたちがいました。



6月から猪俣中央会館で笛と太鼓の練習が始まりました。

最初に発表の順番を確認し、次にばちの持ちかたや太鼓をたたくときの姿勢を教わりました。

久しぶりのためか、初めはバラバラで弱々しかった音も回数を重ねるたびに力強い音へと変化していきました。決して十分ではない練習量にもかかわらず、日々、成長していく子どもたちの姿に、たくましさ頼もしさを感じ取ることができました。

8月14日、雨の中、子どもたちは猪俣地区を歩き回ります。

「人別」と呼ばれる寄付金と材料集めを行い、塚の上で火を灯すための「燈明」づくりを行いました。



ぼくたち・わたしたちが、「猪俣の百八燈」を取りしきります！



親方・後見



次親方・若衆組



子供組

役割	親方	後見	次親方	若衆組	子供組
	参加する子どもの中で、年齢が一番上の子が務め、行事の指導・監督を行います。	前年の親方が務め、百八燈の行われる日だけに参加して最高指揮をとります。	親方の次に年齢が上の子が務め、親方と一緒に行事の取りまとめを行います。	小学校5年生から中学校3年生が務め、親方たちの指導のもと行事を行います。	小学校1年生から小学校4年生が務め、親方たちの指導のもと行事を行います。

